

プロジェクト報告書

団体名 特定非営利活動法人
国分寺市にふるさとをつくる会

1. プロジェクト名

森の教室指導者養成講座

2. プロジェクトの目的とその背景

多摩川の支流野川、源流の森であります西恋ヶ窪緑地は、武蔵野の砦のように残された自然生態系豊かな小さな森があります。この森は、子ども達が古くから愛着を込めてエックス山と呼び遊ぶ場でしたが平成13年、地権者に相続税負担を生じ、開発計画が起りこれを憂い、地権者のご理解と多数の署名を得て、請願書の採択をもって公有化しました。だが、当地はスズメバチも多く、カブトムシ取りでは樹木を傷める方も多く、かつ、子どもの安全見守りが必要なこと、森にある命の尊厳が破壊されていくことなど憂い、子どもの森の自然塾を平成14年から実施すると共に、平成17年から自然生態系の理解と体験的な指導者づくり、森の自然塾を体系的な指導者育成を目的として発足しました。

3. プロジェクトの内容

- (1)森の教室指導者養成講座は、自然体験活動推進協議会（略称CONE）から認証を受け、当「自然体験活動憲章」を規範にして体験学習し、自信をもつ指導者育成と資格取得できる事業としています。
- (2)初年度の資格は『森の教室リーダー』、次年度から資格が『森の教室インストラクター』取得をめざし、多摩地域に多くの指導者育成をめざしました。
- (3)当指導者は、エックス山を中心にして野川源流の一带を教材の地域基盤とし学び、その教材を「子どもの教室」「生物多様性の拡大をめざす」ことの基地にして発信をめざします。

4. プロジェクトの実施にあたって工夫点とその効果

- (1)当講座受講者は、本会が毎月4回実施しています『森の自然塾』に実指導者として体験を組み入れました。その実体験者は、一層の自信をもった指導者に育ちました。
- (2)受講で「生物多様性」「自然生態系」「自然とは何か」等、森を学ぶための基本学習や、その体験を集会で発信できる人材育成をめざしました。
- (3)「森の保全」は、イコール「生物多様性を図ること」「自然生態系を保全すること」ですが、イコール「地域の種の保全」「希少種保全」「命を思いやる心づくり」に結ぶ理論の実体験に、確実な一歩を踏み出すことができました。

5. 全体的な所感、終了しての感想

- (1)当事業の発足時は、目標とする20名を越す参加者でしたが、次の講座から「所用があつて」と欠席者が多くでました。欠席者は、受講を止めるものでなく、その後も都合つく日に受講しています。受講者は、継続的な受講に苦慮していました。
- (2)ならば、土・日・祭日の開催日に変更も考えましたが、連日に渡り本会の行事が行われること、普段の日において「理論の実体験」があり、その出席も重要な体験学習としているために毎月第2水曜日午前中の開催は変更せず実施しました。また、その様な人材育成をめざしました。
- (3)応募者は、都内の各地から参加され、午前9時、時には午前8時30分集合は厳しい開催時間でした。これを変更した場合は、講師の皆様が午前中に希望されること、単位数を割り付けることが厳しい時間割となり土・日・祭日の開催は無理でした。
- (4)参加者の応募方法は、市報と一般紙でしたが、両方とも年に一度の掲載が条件のために追加募集ができませんでした。今後の募集方法については、苦慮中です。

6. 参考資料

- (1)募集用配布パンフレット
- (2)森の教室指導者養成講座記録
- (3)教本『自然体験活動指導者手帳』
- (4)活動風景の写真
- (5)『森の教室指導者養成講座』平成21年度実施計画表

平成20年9月27日
ツリ-ライオン



平成20年1月13日
自然の理解
保存会
講師



平成20年1月13日
自然体験活動の
基礎技術と
指導法
藤森隆即
講師

